

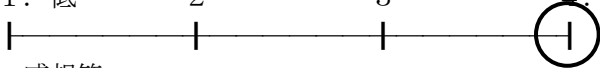
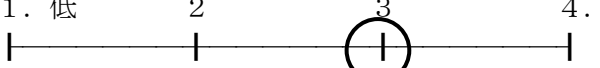
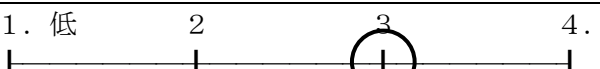
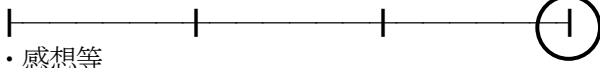
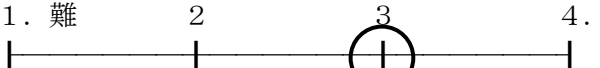
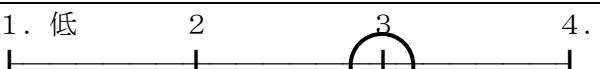
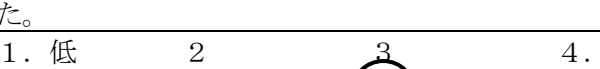
情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	中学校 2年
領 域	学級活動
指導項目	身近にひそむネット依存

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指導分野	安全への知恵		
コード	d4-1 f4-1	指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性の面から、情報社会の特性を理解する。 ・健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる。

授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTube で、毎日長時間、動画を視聴している生徒がいる。 ・SNS をゲーム感覚で利用している子が多い。 ・夜遅くまで、SNS やオンラインゲームをしているため、睡眠時間が非常に少ない生徒がいる。 ・オンラインゲームでアイテムの購入等をしている生徒がいる。
期待される生徒の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・動画サイトやSNS、オンラインゲームを長時間利用することによって、身体面や精神面、経済面などにどのような影響が出るのかを考えることができる。 ・ネット依存にならないための具体的な対策方法を考えることができる。 ・インターネットの利用には、プラス面だけでなくマイナス面があることを知り、安全に利用するためには、どのようなことを心がければよいかを考えることができる。
生徒の変容を促すための 授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを実施し、その結果をまとめたものを授業で提示することで、クラスのインターネットやスマートフォンの利用実態をクラス全体で共有させる。 ・長時間インターネットを利用することによって引き起こされる身体面や精神面への影響を、イラストを用いて説明する。 ・オンラインゲームでアイテムの購入等をしすぎることで発生するトラブルについて書かれた新聞記事を紹介する。 ・SNS を自分たちにとって身近なものとしてとらえ、その危険性について関心をもって考えることができるように、映像教材を利用する。 ・ネット依存にならないためには、どうしたらよいかをさまざまな視点で考えることができるように、インターネット利用時間が長い生徒と短い生徒を同じグループにして話し合いをさせる。
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・『情報化社会の新たな問題を考えるための教材』教材②「身近にひそむネット依存」 <u>動画の内容</u> スマートフォンが手放せなくなり、生活が乱れてしまう。友達と夜遅くまでメッセージのやり取りをし、自転車に乗りながらの操作、家族と食事時の操作など依存が高まってしまう。

評価

生徒について	生徒の 興味関心の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・導入でクラスのインターネット利用実態を共有したことで、身近な問題として捉え、多くの生徒が意欲的に本時の活動に取り組むことができた。
	生徒の理解度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・動画を用いたことで、ネット依存の症状について全員が理解をした上で、課題追究に臨むことができた。グループ活動では、一人一人が積極的に発言する場面が見られた。
	生徒の 変容の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・授業の最後に、個人の実践目標を立てたことで、自分がどうすればよいか具体的になったため、授業から1週間後の事後調査では、インターネットの利用時間が減ったり、以前より早く寝たりする生徒が増えた。
授業について	事前準備の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 ・映像資料はダウンロードできる。インターネットに接続した状態でストーリーミング再生すると映像が止まる可能性があるので注意が必要である。 ・事前アンケートやワークシートもダウンロードできる。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 ・映像が分かりやすくまとめられているため、授業の方向性が大きくずれてしまうことはない。グループ活動が主となるため、ふだんからグループで話し合う活動を行っておく必要がある。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・グループでの話し合いや発表を通して、ネット依存の問題点をさまざまな視点から考えることができた。また、個人の実践目標を立てさせたことで、ネット依存にならないための具体的な方法を各自が見いだすことができた。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 ・視覚的な資料を用いたことで、生徒の興味関心を引き出すことができた。また、インターネットを長時間利用している生徒とほとんど利用していない生徒を同じグループにしたため、さまざまな視点で追究することができた。

<実践の感想及び反省点等>

少数ではあるが、クラスにネット依存に近い状態にある生徒や課金を行っている生徒、生活が昼夜逆転している生徒がいる。今後もこうした生徒は増加してくると考えられる。今回の授業を通して、それらの生徒が「これからは午後10時までに寝る」や「インターネットを利用する時間を家族と約束する」など、具体的な個人目標を立てることができたことはよかった。ただ、今回の授業で全てが変わるわけではないので、継続してアンケートを行ったり、授業を行ったりするなど、継続した指導の必要性を感じた。

実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導入	5分	<p>○事前アンケートの結果を見て、意見や考えを発表する。</p> <p>＜想定される回答例＞</p> <p>「クラスの半数がスマートフォンを持っている」</p> <p>「深夜0時以降もSNS等をやっている」</p> <p>「オンラインゲームをしている人がいる」</p> <p>「動画を投稿している人がいる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのインターネットの利用実態を共有することで、生徒に身近な問題であることを意識させる。 ・本時の活動をスムーズに行うことができるようにネット依存について簡単に説明をする。
展開1	15分	<p>○本時の目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分や友達がネット依存にならないようにするためには、どうすればよいだろう</p> </div> <p>○動画「教材②ネット依存（中2～高3）身近にひそむネット依存 導入編」を視聴する。</p> <p>○動画の状況について、次の観点でワークシートに意見や考えを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜスマートフォンを手放せなくなったのか ・今後どうになってしまうのか <p>○ワークシートに記入したことについて、グループで話し合い、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちになって考えることで、誰もがネット依存になる可能性があることに気付かせる。 ・さまざまな視点で話し合いができるようにするために、インターネット利用時間が長い生徒と短い生徒でグループを編成する。
展開2	25分	<p>○動画「教材②ネット依存（中2～高3）身近にひそむネット依存 解説編」を視聴し、ネット依存の種類と問題点を知る。</p> <p>○ネット依存に陥らないための対策をグループで考え、話し合う。</p> <p>○グループでの話し合いを発表し、学級全体としての意見をまとめる。</p> <p>＜想定されるまとめ例＞</p> <p>「家族とルールを決めて、スマートフォンの長時間利用をしないようにする」</p> <p>「夜遅くまでやり取りをしないように、あらかじめ友達と約束をする」</p> <p>「直接会って話をするように心がける。」</p> <p>「どうしてもアイテムの購入等をしたい時は家族に相談をして許可を得る」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使わなければよいという短絡的な考えにとどまらないように、「インターネットに依存せずに便利な道具として使う」という観点で考えるように促す。
まとめ	5分	<p>○学級全体のまとめを参考にして、個人の目標やルールを考え、ワークシートに記入する。</p>	